

横浜市内には、総合公園・運動公園・街区公園など多くの公園があり、市民の憩いの場となっています。なお、金沢区は、市内で一番広い公園面積を保有しています。森林や山といった自然環境を守るための市民の森、源流域の小川の魅力を引き出すための小川アメニティやせせらぎ緑道なども整備されています。

金沢の宅地開発

金沢区の人口が増加する中、1950年代後半から、富岡西・長浜・六浦3丁目・柳町などで宅地開発が始まりました(約20ha)。1965年頃からは、能見台・釜利谷西・東朝比奈・並木などで50haを超える大規模な宅地開発が行なわれました。

富岡・能見台の公園と桜

富岡西公園、能見台北公園、グリーンベルト、能見台中央公園、能見台東公園、千丈公園、片吹公園、瀧公園、能見台緑地などや各街区公園に多くの桜が植えられています。

関ヶ谷不動尊

かつて、染井歩道橋付近にあった谷津川の水源近くに祀られていましたが、関東大震災と昭和50年代の宅地開発により、現在地に遷されました。



関ヶ谷不動尊

不動池

関ヶ谷不動尊の参道のそばにあります。かつて、釜利谷の開発で出た膨大な土を、金沢地先埋め立てに使用するために、トンネルを掘り、ベルトコンベアで運んだ跡です。現在では、野鳥も多く集まる緑豊かな自然に囲まれた憩いの場となっています。

桜と花見

奈良時代には、花見は梅を觀賞することが多かったようですが、平安時代になると、花見といえば桜を觀賞することをさすようになりました。当初は、貴族の行事でしたが、室町期以降は武士階級でも花見の宴を行っていたようです。豊臣秀吉の催した醍醐の花見は有名です。

花見の風習が庶民の間に広まったのは、徳川吉宗が江戸の各地に桜を植えさせ、花見を奨励してからだといわれています。

サクラは、「咲く」に複数の意味する「ら」を加え、多くの花をつける植物全体を指す言葉だと言われています。また、春に里に下りてくる「稲(サ)の神様がのりうつる「座(クラ)」なので、サクラという、という説もあります。さらに、富士山の頂から花の種をまいて花を咲かせたとされる、木花之咲(開)耶姫(コハナノサキメ)の「サクヤ」から転じてサクラになったとも言われています。

サクラのおおもとは、ヒマラヤ近郊が原産地といわれていますが、日本では数百万年前から自生していて、日本人の文化、生活、歴史などに多くの影響をあたえています。



能見台北公園

太寧寺

海蔵山。臨済宗建長寺派。本尊は薬師如来。かつては、室の木(現・関東学院大学の東端あたり)にありましたが、昭和18年(1943)に、横須賀海軍追浜飛行場拡張のため、現在地に強制的に遷されました。

源頼朝の異母弟である源範頼(ミナトノリヨ)の墓とされる五輪塔があります。寺伝によると、頼朝から謀反を疑われ、修善寺に幽閉された範頼は、横須賀の追浜まで逃げ延びてきましたが、最後はこの太寧寺で自刃したとのことです。

赤ひげ先生と呼ばれた江戸の医師・小川笙船の墓もあります。

本尊の薬師如来は、孝行娘を救ったという昔話から「へそ薬師」とも呼ばれます。

範頼ゆかりの「蒲桜」が有志によって植えられています。

蒲桜

蒲冠者(カガノカザヤ)と称された源範頼が、埼玉県北本市石戸宿付近を通りがかり、桜の木にカブトをかけたところから、あるいは突いてきた杖が根付いたところから、この桜を「蒲桜」と呼ぶようになった、といわれています。「石戸蒲桜」は、日本五大桜の一つとされ、天然記念物に指定されています。